

Experience a Luxurious Life from Above

ヘリコプターが叶えるラグジュアリーな日常 文・中野香織

日本ではまだ身近な存在ではない、ヘリコプターでの空の移動。

欧州ではプライベートヘリの所有や、

洗練されたヘリサービスの世界が広がっています。

ヘリコプターを活用することで叶う上質で快適な新しい日常について、
欧州のラグジュアリー文化に造詣の深い中野香織さんに解説していただきます。

ヨーロッパの一部の階層にとって、ヘリコプターはライフスタイルの象徴でもある。コート・ダジュールの別荘からミラノ・ファッションウィークのショー会場へ、コモ湖での拳式からアルプスの山頂へ。渋滞や交通網の束縛を離れ、空を滑るように移動する自由は、時間に余裕と美しさをもたらす。

ヘリコプター移動の最大の価値は、何よりも、時間の制約から解放されるという点にある。陸路ならば数時間かかる移動も、ヘリであれば短い滞空時間で到達できる。節約されたのは時間というよりもむしろ、人生の密度そのものだ。

さらに、機内からの眺望は、地上からは決して得られない視点を与える。青く輝く海を見下ろしながらの飛行、朝焼けに染まる山々を抜けるひととき。それは単なるA地点からB地点への移動ではなく、感動と発見を兼ね備えた冒険的な体験に昇華される。

プライバシーも忘れてはならない。専用ヘリポートや目的の場所に直行できる利便性、外部の視線から守られる安心感は、公共交通機関では実現できない。しかも、緊急時には迅速な行動が可能となる。ラグジュアリーとは夢やエネルギー、そして最新技術と思想が結集される領域である。

だからこそ、次世代の新しい文化を生む温床となる。ヨーロッパにおける洗練されたヘリ活用は、移動の概念を刷新し、豊かさに対するイメージを描き替えてきた。その潮流は、日本における可能性も示唆している。

すでに日本でも、非日常の上質を求める層が、ヘリコプター移動を選択肢に取り入れ始めている。日本らしい文脈でいえば、地上の交通では届きにくかった秘境の美食やウェルネス、精神文化に触れる体験が現実味を帯びる。

たとえば、富山県利賀村に位置する「レヴォ」。谷口英司シェフ率いるミシュラン星付きのオーベルジュであり、山あいの秘境にあるが、ヘリならストレスなく到着できる。

あるいは東京諸島の青ヶ島。世界でも珍しい二重カルデラ地形を持つ絶海の孤島で、日本屈指の上陸難易度を誇る。ジブリの世界のような神秘的な風景や、夜は満天の星空が広がり、地熱サウナなど天然のウェルネス体験もできる。こんな孤島パワースポットにもヘリなら容易に到着できる。青森の恐山で鎮魂の儀式に参加する、熊野古道で生命の再生や浄化を願う、といった日本古来の聖地で精神文化に触れる体験も、身近になる。

さらには、三重の間崎島リゾート「MOKU ISESHIMA」、熊本の「竹ふえ」といった離島・山間のラグジュアリー拠点は、空路の動線が整うことで、その価値をより純度高く提示できるだろう。眠っていた食の潜在力、絶景、ウェルネスの叡智、精神文化の深みを掘り起こすことは、地域の活性化にもつながる。ヘリコプターがその可能性を高めるのである。豊かさを独占するのではなく、環境全体の幸福度を底上げすること、これが新しい時代のラグジュアリーの倫理にほかならない。

ヘリコプターとともにあることは、日常を芸術に近づけ、人生の輪郭をより鮮やかにする選択である。同時に、未発見の土地の魅力を開発する契機ともなる。空の豊かさが解き放つ愉しみは、これからいっそう深まっていくだろう。

中野香織

服飾史家／著作家

ラグジュアリー文化を中心に著述・講演・教育・企業アドバイザーに携わる。青山学院大学経営学部客員教授。メディア出演も多数。在日英国商業会議所(BCCJ)が主催するBritish Business Award 2025の審査員。著書「『イノベーター』で読むアパレル全史 増補改訂版」(日本実業出版社)、「ロイヤルスタイル 英国王室ファッション史」(吉川弘文館)など多数。共著「新・ラグジュアリー文化が生み出す経済10の講義」(クロスメディア・パブリッシング)。

